

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：32506  
研究種目：若手研究(B)  
研究期間：2011～2012  
課題番号：23730666  
研究課題名（和文）健康行動あるいは自殺行動に関連した行動要因の研究

研究課題名（英文）Health and Suicide-Related Attitudes

研究代表者

山口 綾乃 (YAMAGUCHI AYANO)

麗澤大学・外国語学部・講師

研究者番号：40592548

研究成果の概要（和文）：

2011 年度から 2012 年度における若手研究 B において、第 1 の研究では、①米国における青少年とその家族における社会関係資本と心理的なウェルビーイング、②多様性のある社会関係資本の役割、心理的ウェルビーイングについて、第 2 の研究では、①多文化の視点からみた自己批判とうつ傾向、②多様性のある自己批判とうつ傾向の役割について、第 3 の研究では、①大学生における心配や不安感に関する因子構造について検証した。

研究成果の概要（英文）：

According to Grant-Young Scientist B's 2011-2012 research, the first core study examined the impact of social capital and individual/family characteristics on the psychological well-being of 12- to 17-year-old adolescents in the United States. The second main study was aimed at testing the cross-cultural predictions of the associations between self-criticism and depression. The third major study identified a comprehensive conceptualization of the structure of worry and its effect on social anxiety.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	3,500,000 円	1,050,000 円	4,550,000 円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学、臨床心理学

キーワード：健康心理学、健康行動、幸せ、生きがい、健康（ヘルス）コミュニケーション、うつ傾向、自殺傾向、健康開発など

## 1. 研究開始当初の背景

世界的な経済危機やそれにもなった社会不安、不平等、格差の背景から、うつ傾向のある人や精神障害を患っている人は、自殺傾向や自殺死亡のリスクが高い。こうした事実から考えると、個人の性格的特徴、仕事や対人関係などの社会文化背景、そして過労などによるストレスが現代社会の人々に過剰にかかっているのではないかと考察した。

## 2. 研究の目的

世界的な経済危機や、それに伴った不安、不平等、格差などを少しでも改善するため、2011年度から2012年度における若手研究Bでは、主に3つの主要研究の調査目的をここに説明する。

第1の主要研究では、①米国における12歳から17歳の青少年とその家族における社会関係資本と心理的なウェルビーイングに関する経緯と現状、②問題の概要を紹介し、③多様性のある社会関係資本の役割、それともなう心理的ウェルビーイングについて検証することを目的とした。

第2の主要研究では、①多文化の視点からみた自己批判とうつ傾向に関する経緯と現状、②問題の概要を紹介し、③多様性のある自己批判とうつ傾向の役割について述べることを目的とした。

第3の主要研究では、大学生における心配や不安感に関する因子構造について述べることを目的とする。本稿は、660人の日米の大学生にサンプルを取り、構造モデルを検証した。

## 2. 研究の方法

### 【研究方法】

3つの主要研究の目的を達成するために、

- (1) 過去の研究結果や理論研究をレビューし、特に新しい考え方である慈悲心について詳しく調べ、定義づけるよう努めた。人の心の状態を推定する理論モデルを独自に提案した。
- (2) 質問紙調査を行い定量調査における情報を収集し、パス解析や共分散構造分析を使って理論モデルを解明し、人の心の状態を推定する理論モデルを解明しようとした。
- (3) 社会関係資本因子構造、心理的ウェルビーイング因子構造、心配、不安因子構造や因果関係をパスモデルで検証した。

3つの主要研究の研究方法を具体的にここに説明する。

第1の主要研究では、社会的なつながりから構成される社会関係資本がアメリカにおける青少年とその家族の心理的なウェルビーイングに対してどのような影響をあたえているのかについて、National Survey of America's Families (NSAF) という国勢調査を使用して分析し検証した。

第2の主要研究では、文化的自己観というものを使い、日米の大学生の自己批判行動がうつ傾向にどのように影響しているのかを、日米の大学生にサンプルを取り、分析、検証した。

第3の主要研究では、660人の日米の大学生にサンプルを取り、構造モデルを検証した。探索的因子分析を行った結果、日本の男子学生だけが、ユニークな因子構造を示した。

#### 【学問的な貢献】

①理論的な定義、学問とする方法論の研究：心理学関連分野（健康心理学、ポジティブ心理学、ヘルスコミュニケーション、異文化コミュニケーション、文化心理学など）や医学の分野でいわれている慈悲心や心の豊かさや自殺傾向、あるいはうつ傾向について調査し、それらをもとに心の豊かさや自殺傾向、あるいはうつ傾向を定義した。また、心の豊かさや自殺傾向あるいはうつ傾向に影響する内的要因と外的要因を整理し、それらの計測方法について検討するとともに、研究の体系案を作成した。

②人の心の状態を推定する理論モデルを独自に構築：様々な状況下に置かれた時の人の心の動き、慈悲心などの理論をモデル化した。いろいろな状況での感情や心の変化について実際にアンケート等を用いて計測し、それらの情報を統計的に処理することでモデル化を行った。

③定量調査を行うにあたり質問紙調査票の作成と調査におけるHuman Subjectsの許可取得：定量調査を行う前に、質問紙調査の作成、ならびに米国の大学において調査を行う前に倫理委員会の許可を得る手続きを踏んだ。

米国の大学に申請する書類はすべて英語で行われ、適切な日英訳を行い、書類を作成した。

④定量調査のデータ収集と統計モデル作成：倫理委員会の許可を得た段階で、定量調査のデータ収集と統計モデルを作成した。定量調査で収集したデータはSPSSに入力し、基礎的

な統計解析を行った。

#### 4. 研究成果

2011年度から2012年度における若手研究Bでは、主に3つの主要研究について、主な研究結果、考察、発展をここに説明する。

第1の主要研究について、統計分析をした結果、社会的なつながりから構成される社会資本が彼らの心理的なウェルビーイングに対して正の関係を示した。したがって、本稿の結論として、社会的なつながりから構成される社会関係資本が彼らの心理的なウェルビーイングにプラスの影響をあたえているということを指摘した。

第2の主要研究について、統計解析の結果、自立的自己観のレベルが高い米国の学生は、比較的自分自身を批判する傾向があるため、周りや常々自分を比べ批判し、最終的にはうつ傾向が高くなるということが分かった。しかしながら、他者依存的レベルの高い日本の大学生は、自分自身を批判する傾向があり、最終的にはうつ傾向が高くなるということが分かった。したがって、本稿の結論として、文化的自己観が自己批判傾向に影響があるということも指摘した。

第3の主要研究について、探索的因子分析を行った結果、日本の男子学生だけが、ユニークな因子構造を示した。第1因子には私的な心配や不安要因を示し、第2因子には公的な、社会的な心配や不安要因を示した。日本人の男子学生は女子の学生と違って、就職することに対して大変負荷がかかり、社会的プレッシャーを感じる傾向にある。本稿の結論として、日本人男子学生の心配・不安感に関してユニ

一クな因子構造を発見した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①Yamaguchi, A. Influences of Social Capital on Health and Well-Being from Qualitative Approach (Accepted, In Press, 2013, *Global Journal of Health Science*). (査読有)

②Yamaguchi, A., & Kim, M.S. Effects of Self-Constraint and Its Relationship with Subjective Well-Being across Cultures (Accepted, In Press, 2013 *Journal of Health Psychology*). (査読有)

③Yamaguchi, A. (2013). Impact of Social Capital on the Psychological Well-Being of Adolescents, *International Journal of Psychological Studies*, 5(2), 100-109. (査読有) DOI:10.5539/ijps.v5n2p100

④Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2013). Effects of Self-Criticism and Its Relationship with Depression across Cultures, *International Journal of Psychological Studies*, 5 (1) 1-10. (査読有) DOI:10.5539/ijps.v5n1p1

⑤Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2013). Patterns and structures of worry among college students in Hawaii and Japan, *International Journal of Psychology and Counselling*, 5 (1) 1-12. (査読有) DOI: 10.5897/IJPC12.032

[学会発表] (計 4 件)

①Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2012). Patterns and Structures of Worry Among College Students in Hawaii and Japan, National Communication

Association, November 2012 in Orlando, FL, U.S., Japan-US communication Association at NCA (査読有)

②Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2012). Cross-Cultural Assumptions of Cultural Variation and Self-Criticism on Depression in Mental Health, International Communication Association, May 2012 in Phoenix, AZ, U.S., Health Communication Section at ICA. (査読有)

③Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2011). Effects of Goals and Cultural Orientations on Subjective Well-being among College Students in Japan, National Communication Association, November 2011 in New Orleans, LA, U.S., Japan-US communication Association at NCA. (査読有)

④Yamaguchi, A. & Kim, M.S. (2011). Levels of Self-Criticism and Depression among College Students in Japan, International Communication Association, May 2011 in Boston, MA, U.S., Health Communication Section at ICA. (査読有)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山口 綾乃 (YAMAGUCHI AYANO)

麗澤大学・外国語学部・講師

研究者番号：40592548